

NEWS

Vol. 33

CONTENTS

2 特集

みんなの力で築いてきた「生きる喜び」
～1万人のありがとう～

ドナーさん、患者さん、骨髓バンクを
支える方々からのメッセージ

8 元気になったあなたへ「3回目の手紙」

9 日本骨髓バンクの現状

10 トピックス

11 <骨髓バンクを支える> コーディネーターの仕事

12 お知らせ

- コーディネータ養成研修会受講者募集のお知らせ
- 募金のお礼とお祝い

2008年10月末現在

日本骨髓
バンク
の現状

登録者数
32万3,440人

移植数
9,890例

●発行 2008年12月3日
財団法人骨髓移植推進財団
●発行責任者 正岡 徹(理事長)
●編集責任者 平井 全(常務理事)

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-19 廣瀬第2ビル7F
Tel 03-5280-8111 / Fax 03-5280-0101



自分にできることで 骨髓バンクを応援したい!

~~~~~唐沢寿明さん~~~~~

今年も芸能プロダクション・研音グループのご協力により、「研音グループ2008年度チャリティーオークション」が開催されました。

オークションの発起人である唐沢寿明さんをはじめ、14人のタレントさんから商品を提供していただきました。

オークションはこれまでと同じく携帯サイト上で実施され、収益金の約173万円が骨髓移植推進財団に寄付されました。

### 落札された方から喜びのコメントが届いています

■5歳の息子の誕生日を金額にして入札しました。落札できるとは思っていなかったのですが、連絡が来たときはとても感激しました。オークションに参加することで骨髓バンクを応援できたことも嬉しく思っています。(竹野内豊さんの写真を落札したA.Uさん)

骨髓バンクのことは新聞記事で知りました。何か自分にできることはないかと考え、オークションをやってみようと思いました。これまでに2回、所属事務所のタレントたちと共にチャリティーオークションを開催することができました。

この夏には3回目となるチャリティーオークションを開催しました。ご参加いただいた皆さまには大変感謝しています。

白血病などの難病と闘っている患者さんやそのご家族の方々をはげまし、参加して下さった方に少しでも「骨髓バンク」に関心を向けてもらいたい。これからも骨髓バンクを支援していきたいと思えます。

唐沢寿明



竹野内豊さん



志田未来さん



菅野美穂さん

研音グループ所属のアーティスト情報は

<http://www.ken-on.co.jp/>  
<http://www.ken-on.co.jp/mobile/> (モバイルサイト)をご覧ください。

# きた「生きる喜び」

2008年12月、骨髄バンクを介した骨髄移植例数が1万例に到達します。1993年1月に日本骨髄バンクによる初の骨髄移植を実施してからちょうど16年で1万例に達したことになります。これはドナーさん、患者さんをはじめとして、たくさんの人々が骨髄バンクを支えた結果に他なりません。今号ではこの1万例に関わった多くの方々からのメッセージをご紹介します。

9,000例  
2008  
**2008年12月  
10,000例  
到達**

8,000例  
2007

7,000例  
2006

6,000例  
2005

5,000例  
2004

4,000例  
2002

3,000例  
2001

## 2008年提供

私は、骨髄提供を通して、いのちを実感しました。

日本でも1万人の方が、この言葉にできない感動を経験したのですね!

山本愛己



## 2008年移植

目標は雪山に立ってまたスノーボードをすること。

こんな夢を見れるのも骨髄バンクとドナーさんがいてくれたお陰です。チャンスをありがとう。

荒井善正



## 2008年提供

「自他共栄」共に生きる。ドナーとなって、救える命があることを実感しました。

進 孝男



## 2004年提供

約1.3億人いる日本の人口の中で1万と言う数字が多いか少ないかは分かりませんが、これからも、移植を望む患者さんに骨髄移植ができることを願っています。

あの腰痛のような痛みは、すっかり忘れてしまいましたが、いただいたお手紙は私の手元にあります。こちらこそありがとう。

おちあやこ



財団法人  
骨髄移植推進財団  
理事長

正岡 徹

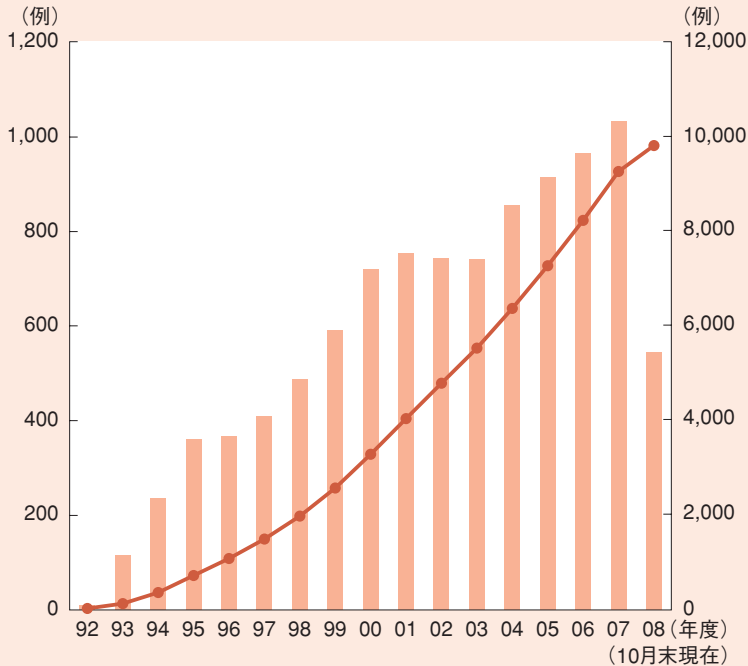
いつも骨髄バンクニュースをご愛読いただき、誠にありがとうございます。本年12月に骨髄移植例数が1万例に到達いたします。私が2005年4月に理事長に就任したときはドナー登録者が20万6000名、骨髄移植の数は6400例でした。現在はドナー登録者が32万人を超え、骨髄移植の数も毎年、着実に伸びております。これまでの3年半の間に、これほどドナー登録者および骨髄移植が増えたことは、骨髄提供されたドナーさんをはじめ医療機関の皆さまのご尽力や、ボランティアの皆さま、厚生労働省や日本赤十字社など関係者のご協力なくしては成しえなかったことであり、心よりお礼申し上げます。

私はこれまで白血病と50年以上、骨髄移植と30年以上関わってまいりました。その間、治療法の進歩は目覚ましいものがあり、治療成績も向上しています。骨髄移植によって、元気になられた患者さんの笑顔を見ていると、この仕事をしてきて本当に良かったと思うと同時に、病気で苦しんでいる患者さんに一日でも早くドナーさんが見つかり、骨髄移植の機会が訪れることを願って止みません。

# みんなの力で築いて ～1万人のありがとう～

ドナーさん、患者さん、骨髄バンクを支える方々からのメッセージ

■年度別・累計移植例数



## 1999年移植

移植からもうすぐ10年、完全復活。2008年は東京マラソン、先日は高尾山天狗トレイルランという山の中を18キロ駆け昇ったり下ったりするレースに出場しました。来年は、100キロウルトラマラソンに挑戦です！

石川一喜



## 1994年移植

1万例の移植、イコール1万人のドナーさんがいるという事に感激です！親から生命を受け、そして、第二の命をドナーさんにいただいたから、今こうして普通に生きています。再びあの美しい自然に会いたい、音楽を聴きたい、友人達に会いたい、と沢山の願いを胸に闘病していました。ドナーさんのお陰で、その願いが叶っています。ほんとうにありがとう。

田島香雪



## 1998年移植

今年グリーンリボン駅伝で1キロ走り切ることができて感無量です。途中もう止めようと思いましたが、タスキの重みが私を最後まで走らせてくれました。たかが1キロですが、移植後10年の私の人生のように、止まりそうになりながらもゆっくり前進してきました。ドナーの方あっての私です。元気に走っている私をドナーさんにお知らせできれば最高です！

高橋めぐみ



2000

2,000例

1999

1998

1,000例

1997

1996

1995

1994

1993

## 2000年提供

提供した日のことは今も忘れていません。共に助け合える社会になればと思います。

中野義樹





## 「骨髄提供は大きな試合に 勝利したときのような充足感がある」

——2007年に骨髄提供した松尾宏司さん

**私の社会貢献は骨髄バンクを知ってもらったこと**

長崎県で保険代理店を営む松尾宏司さんは、生保、損保18社の有志で定期勉強会を開催していますが、今回は社会貢献の1つとして骨髄バンクについて仲間知ってもらうという講演会を計画。骨髄提供の体験談は松尾さん自らが語り、骨髄バンクの説明は財団の地区普及広報委員が担当して開催しました。参加者は、骨髄バンクの名前だけ知っているという程度でしたが、講演に熱心に耳を傾け、終了時には登録を検討しようと言ってくれました。

**提供を機に10kgの減量。患者さんが健康のありがたさを教えてくれた**

松尾さんが登録したのは、以前勤めていたソニー生命保険株式会社が2002年に開いた丹後まみこさん(※注)の講演会に参加し、白血病で亡くなった丹後さんの次男光祐君のような患者さんを救いたいと考えたからです。

患者さんとの適合通知を手にした時、正直「ドキッ」とした戸惑いはありましたが、患者さんが手を振って助けを求めている姿を想像し、この手をつかんで引き上げなければと気持ちを切りかえたそうです。すると今度は自分の健康面の不安がよぎりました。学生時代にラグビー部をしていましたが、就職後は食生活の乱れや運動不足でそつとつメタボ体質になっていたからです。



そこで、食生活の改善と運動を始めることにしました。こうした甲斐もあり、無事確認検査をクリア、最終候補に選ばれました。提供のため入院した病院では、なんとラグビー仲間と再会。彼は白血病で入院していたのです。食事に気をつけ運動により3カ月で10kg以上もやせていた松尾さんを見て、同じ白血病かと思ったそうです。

「提供後の痛みは、少しだるい感じがしただけ。それに引き換え、骨髄提供は大きな試合に勝利したときのような爽快な気分でした。試合前の緊張感とそれに備えるの練習、努力、その結果として味わえる大きな充足感、そのままでした。何から何までお世話いただいたコーディネーター、健康な体に生んでくれた両親、健康管理に気を使ってくれた妻、努力している自分を尊敬してくれた娘、そして何より健康のありがたさに気付かせてくれるきっかけを作ってくれた患者さんに感謝しています」

※注 丹後まみこさん：次男光祐君の白血病体験からいのちの大切さを語る。光祐君が育て残した「いのちのアサガオ」の種は全国に広がっている。  
http://www.xyj.co.jp/sagaov

**娘が決めたことだから、  
万が一何かがあっても受け止める。**

岡本久良子さんの娘、加藤尚子さんがドナー登録をしたのは、3年前。そのときは、仕事を辞めて学校に通っていた時期でした。以前から元X JAPANのhideさんがドナー登録をしたニュースを見たことがあり、骨髄バンクに興味がありました。

「『火火』という映画(※注)を見て、いい機会だから登録しようと思いました。学生だったので、比較的時間も取りやすかったです(加藤さん)

登録してから1年半後、初めての適合通知が届きました。加藤さん自身はびっくりしましたが、家族は大喜びで、特に一緒に登録した妹さんはうらやましがったくらいです。

「娘が決めたことだから、不安はなかったです。何かがあっても、それはそれで受け止める、反対はしなかったです(岡本さん)

**骨髄提供の経験は私たちにとって  
貴重な経験**

加藤さんの職場の人は提供について「すごいね、がんばっておいで」と後押ししてくれる人ばかりでした。提供した2007年は8000例到達の時期で、それから2年も経たないうちに今度は1万例となり、お一人ともとても驚いていました。

「痛みは思っていたほどではなかったです。傷自体が痛いというより、呼吸器につながるチューブで口の中に口内炎ができてしま

って、そっちの方が痛かったです。介護の仕事をしていたので、患者さんが看病される気持ちがちよっぴりわかったことはいい経験でした(加藤さん)

「できすぎの娘だなあと思っています。骨髄提供を通じて、親子でいい経験をさせてもらいました。知り合いから『よくぞこのような娘を育てた』と言われ、私の株が上がったくらい(岡本さん)

提供後も「何ともなかった」と話す加藤さんは、もうすぐ出産を控えています。子どもが大きくなるまではドナー登録を保留していますが、いずれまた提供のチャンスがあれば、引き受けたいと思っているそうです。

※注 映画「火火」：骨髄バンク設立に奔走した女流陶芸家 神山清子さんをモデルにした映画



**親としてはできすぎた娘だと思っています**

——2007年に骨髄提供した

加藤尚子さんのお母さん 岡本久良子さん

# 「『今度はお父さんの番だよ』と息子に導かれて」

— 2008年に骨髄提供した 横幕嘉久さん

**息子の闘病から、  
誰かの役に立ちたいと思った**

横幕嘉久さんが妻真紀さんと3人の男の子に囲まれ幸せな生活を送っていた2002年、当時4歳だった長男の航平君が白血病と診断されました。航平君の病気は小児には珍しい急性骨髄性白血病だったため、抗がん剤治療の後、HLA型の一致した次男から骨髄移植をすることにになりました。弟と遊びたいという思いに支えられ、いつも明るく弱音をはずす辛い治療に耐え続けていた航平君ですが、移植後のGVHD(※注)のため病状が急変。退院を目前に5年3カ月の生涯を閉じました。苦しい病状でも弟の手を握ろうと体を起こし、生きることをあきら



ドナーとなった次男修史君(当時2歳)



病床にあっても笑顔の航平君(当時4歳)

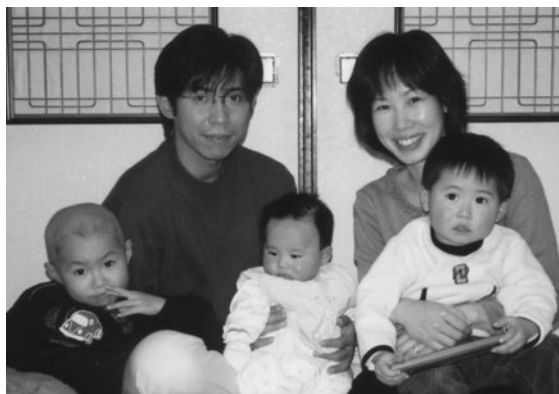
めなかつた航平君から、家族は愛する人がいればがんばれることを学びました。嘉久さんはこうした経験から、病気の人の役に立ちたいとドナー登録しました。

**ドナーになった次男と同じことができる**

ドナー登録から4年、嘉久さんの元に適合通知が届きました。妻の真紀さんは、航平君が「今度はお父さんの番だよ」と話しかけているように思えたそうです。そして「風邪などひかないようにしっかりとね」と嘉久さんを激励しました。職場では「コーディネートが何より優先」と応援をいただいたそうです。

「会社にドナー休暇制度はありませんでしたが、同僚や上司のバックアップで、休みは提供のための入院4日間だけ。それ以外の検査や面談は、仕事の合間をぬつてやりくりできました。また、痛みはあつて当然と覚悟をしていましたし、幼い次男が提供するのを見ていたので、不安は全くありませんでした。実際には鈍痛というか強い凝りといった程度でしたので、退院後はすぐ出勤しました。周囲からは、骨髄提供が思ったより大変ではないと再認識してもらえました。患者さんは十分にがんばっているのを知っているので、がんばつてと言えません。健康を取り戻すのに、私の骨髄が役立てばうれいです」

入院患児の親の会で活動する真紀さん

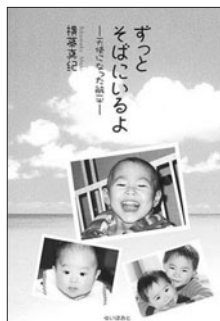


一時帰宅中の航平君と横幕さん一家

んは、会報に嘉久さんのドナー体験を載せました。

「今まで患者側のことしか分かりませんでした。これからは提供する側のことも含め、私たちの経験が役立つのであれば広めていきたいと思えます。全て航平が導いてくれたのでしよう」

※注 GVHD(移植片対宿主病)：移植したドナーの骨髄から造られるリンパ球が、患者の体を異物と認識し、皮膚や臓器などを攻撃する移植後の合併症



本という形で今もみんなの心にいる航平君

## あなたの会社やお子さんの学校で、骨髄バンクの講演会を開きませんか？

骨髄移植推進財団では、骨髄バンクの理解を深めていただくため、学校や企業などに講演者や説明者を派遣する事業を実施しています。

皆さまの職場や学校、地域のコミュニティなどで、元患者さんや骨髄提供されたドナーさんなどの講演、ドナー休暇制度に対する説明などを希望される場合は、骨髄移植推進財団までお知らせください。講師の派遣を当財団が行います。また、元患者さんやドナーさんでご自身の体験談をお話いただける方(語りべさん)も募集しています。

### 中学校で行われた骨髄バンク講演会



お問い合わせ先・骨髄移植推進財団

広報渉外部

0120-4445-4445  
(平日9時～17時半)



## 今でも思い出すのは移植が間に合わなかった患者さんのこと

国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 血液科部長 谷口修一先生

**骨髄バンクは患者さんに  
生きる希望を与えてくれた**

1991年に公的な骨髄バンクができる前は各地の関係者が手作りで骨髄バンクを作っていました。そのころと比べると広く公平に患者さんを救う目的で作られた公的骨髄バンクは仕組みが整備され、多くの患者さんに骨髄を提供できるようになりました。

「骨髄バンクができる前はいろいろな苦労があって、僕は九州骨髄バンクで活動していたけれど、各地でそれぞれの関係者が地道な努力をしていた。だから、公的骨髄バンクとして全国的な組織ができるときはうれしかったのを覚えています」

しかし、新しいことを始めるときは苦労が伴うもので、非血縁者間の骨髄移植はそれまでやってきた血縁者間の移植とはやり方が違って、さまざまな試みを行ったそうです。血縁者間移植とあまり遜色のない成績が出るようになるにはある程度の時間がかかりました。

「今なら救えた患者さんがきつというだろうなという思いがあります。でも、骨髄バンクは患者さんに生きる希望を与えてくれたことが何よりも重要でした」

**助けられなかった患者さんのこと  
が忘れられない**

骨髄バンクが一般的になり、患者さんは

生きる夢を繋げられるようになりました。かつては兄弟など身内に適合者がいなければ、諦めてくださいと告げるしかありませんでした。それは医師にとってもつらい告知でしたが、患者さんやその家族にとっても容易には受け止められない事実でした。

「不思議なもので今でも思い出すのは、移植が間に合わなかった人たちのことばかりで、治った患者さんのことはあまり覚えていません。やはり助けられなかったことが、気持ちの上でも忘れさせてくれないのでしょうか。そういったことも含めて、これまでの積み重ねが1万例で、いろいろな意味で感慨深いものがあります」

**これからの課題や期待することは  
まだまだたくさんある**

医療関係者の立場から考える今後の課題は、移植までの時間の短縮化です。個別に病院とドナーさんの予定を合わせるのには難しい部分もあり、「もっと骨髄バンク事業をシステム化する方法を検討すべきではないか。導入の検討が始まっている末梢血幹細胞移植については、これまでの非血縁者間骨髄移植を導入した経験から、慎重に進める必要がある」と谷口先生は考えているそうです。

「末梢血幹細胞移植の導入は後になればよかったと思うのだからうけれど、最



初は苦労の連続でしょうね。治療手段の多様化は望ましいし、さい帯血移植は骨髄移植と同じくらいに増えなければ、やはり骨髄移植が欠かせない疾患もあります。骨髄バンクとさい帯血バンクのどちらがいいのかということではなく、双方がよりよい姿を目指して欲しいと思います」

そして、日々患者さんと向き合う医師として、ドナーさんへ感謝の気持ちをもち続けています。

「骨髄液が届いたときの患者さんの様子は想像を超えるものがあります。命を救ってもらえるのだから、感謝という軽い言葉では言い表せないくらいですね」

## 非血縁者間同種末梢血幹細胞採取・移植法実施に向けて

財団法人 骨髄移植推進財団 常任理事

小寺 良尚

同種末梢血幹細胞移植法は1990年代に入り急速に普及した造血幹細胞移植法です。ドナーの方は顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)の皮下注射を約5日間受け、続いて成分献血を1〜2日間行うことで、骨髄液とほぼ等しい効果を持つ幹細胞液を提供できます。患者さんにおいては、骨髄移植の場合より血液学的回復が早いという利点があります。これらの特徴はドナー負担の軽減と、条件の悪い患者さんへの移植適応拡大に繋がりますので、海外では血縁・非血縁者間ともに、我が国でも血縁者間移植では、骨髄採取・移植数を大きく上回るようになっていきます。ただ、この採取・移植法が2000年4月に健康保険の適用を受けたとき、日本造血細胞移植学会の調査により、海外において末梢血幹細胞採取中並びに採取後30日以内のドナー死亡事例が複数把握されました。そこで、学会はまず血縁ドナーを全件事前登録し、学会が定めたドナー適格基準、採取実施基準を遵守することを全移植チームに義務付けるとともに、ドナーの安全性・危険性に関する実態把握に努めてまいりました。今その事業は9年目に入っておりますが、死亡事例等は無く、G-CSF投与が後年白血病等の罹患率を高めるのではないかと懸念も、骨髄ドナーとの比較においてほぼ払拭できたと考えています。海外における数例の不幸な事例は年齢、健康、採取法の点で、学会の基準に適合しないものが大部分でした。このことは、採取の全件事前登録と各種基準の遵守が、重篤な有害事象発生に対する抑止力になることを示しています。骨髄バンクは当然のことながらこの仕組みを当初から備えており、従って海外バンクドナーからの重篤有害事象報告はありません。骨髄移植推進財団では今年度に入り、本採取・移植法を非血縁者間移植へも適用するための準備を本格的に開始いたしました。日本の骨髄バンクがこれまで以上にその機能を発揮する上で、本法の導入は不可欠であることをご理解賜りますようお願いいたします。

# 「病気になったことを前向きに捉えたい」

— 2005年・2008年に骨髄移植を受けた笹森ゆきのさん

## 化学療法の後、再発。骨髄移植を受ければ治ると信じて

笹森ゆきのさんは大学2年生のとき、急性骨髄性白血病と診断されました。

「治療前に正式な病名を告知されたときは、ショックでした。先生から『いい薬があるから治療すれば治る』と言われ、その言葉を信じて治療を受けました」

そのとおり治療後は、退院・復学もできましたが、一年半後に再発。再発がわかったときは家族の前で号泣しました。しかし、悲しい気持ちを出し切ったことで、骨髄移植を受ける決意ができました。お姉さんとは白血球の型が一致しなかったため、骨髄バンクのドナーさんを探すことにしました。

## 患者さんを助けたいと思ってくれている人たちがこんなにいる

最初の移植のときは、適合するドナーさんが47人もいたそうです。そして2年後、再々発のため2回目の移植をするときは、ドナーさんが90人になっていました。「ドナーさんになってくれたのはお人ですけど、90人の方が支えてくれているような気がしたんです」

笹森さんにとっては、90人のドナーさんが2度目の移植を乗り越える力になりました。

「患者さんを助けたいと思ってくれている人たちが32万人もいる、このことだ

けで勇気が湧いてきます。提供して下さった方にはお手紙を書きましたが、できることなら登録をして下さっているドナーさん全員にお礼が言いたいです」

## 将来は小学校の先生になりたい。病気の経験は人生の強みに。

骨髄移植を成立させるためには多くの方が関わっていることを自身の経験が痛感しています。



奉仕活動の授業で高校生に骨髄移植の経験談を話しました



「自分も何かしたい」という思いから、昨年通っていた大学でドナー登録会を開催しました



「患者さん、ドナーさん、それぞれに家族がいて、働いていれば会社の人もいます。さらに病院の先生や看護師さん、骨髄バンクのスタッフの方やボランティアをされている方々も入れたら、何人になるのかまったく想像つかないです」

骨髄バンクに関わる人たちのひとつひとつの積み重ねが1万例につながっています。笹森さんは温かい気持ちを持った大勢の人たちの笑顔を想像すると、うれしくなるそうです。

「小学校の先生になることが夢だったので、それはもちろん叶えたいですけど、たくさんの人に支えられて、ドナーさんに分けていただいた命でこうして生きていることを伝えていけたらと思います。これからの人生の強みにしていきたいですね」

## さい帯血移植も5000例到達間近！

赤ちゃんのへその緒とお母さんの胎盤には、骨髄液の中に含まれる細胞と同じように血液を作り出す細胞(造血幹細胞)が多量に含まれています。このさい帯血を使った移植は、骨髄移植と同様に、白血病などの患者さんに有効な治療法です。

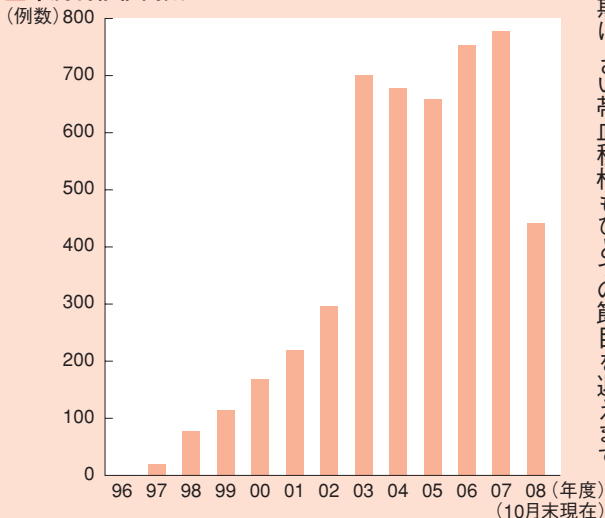
非血縁者間でのさい帯血移植は1997年2月の第1例からスタートしました。現在、さい帯血バンクを介して4920例の実績があり(2008年10月末現在)、もうすぐ5000例に到達します。骨髄バンクを介しての骨髄移植1万例とほぼ同時に、さい帯血移植もひとつの節目を迎えます。

### 第31回日本造血細胞移植学会総会 市民公開講座のお知らせ

来年2月に札幌で開催される日本造血細胞移植学会総会の中で、骨髄移植1万例、さい帯血移植5000例到達を記念した市民公開講座が行われます。お近くにお越しの際は是非ご参加ください。

日時：2009年2月6日(金) 18:30～20:00  
 場所：札幌市教育文化会館 小ホール(入場無料)

■年度別移植例数









# 日本骨髄バンクの現状

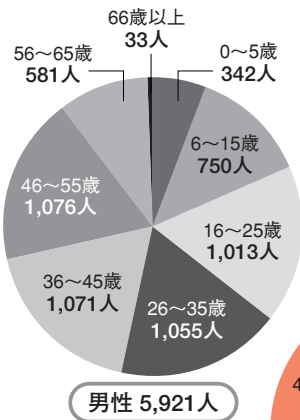
2008年9月末現在

## 非血縁者間骨髄移植の状況

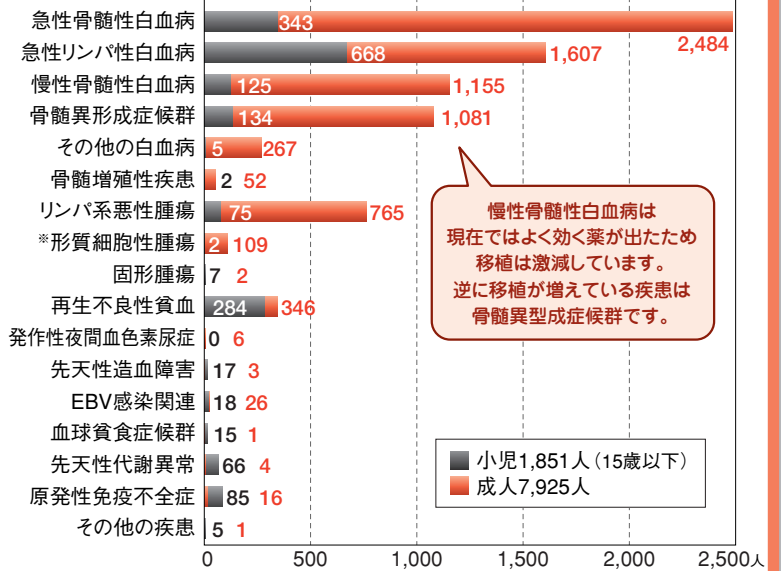
移植患者の状況

9,776件

年齢・男女



疾患



慢性骨髄性白血病は現在ではよく効く薬が出たため移植は激減しています。逆に移植が増えている疾患は骨髄異形成症候群です。

■ 小児1,851人 (15歳以下)  
■ 成人7,925人

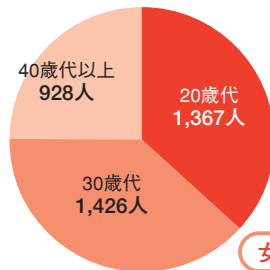
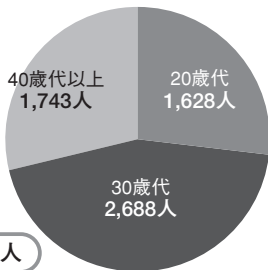
※登録疾患の表示方法が変更となり、これまでの多発性骨髄腫を形質細胞性腫瘍と表示しています。

女性 3,855人

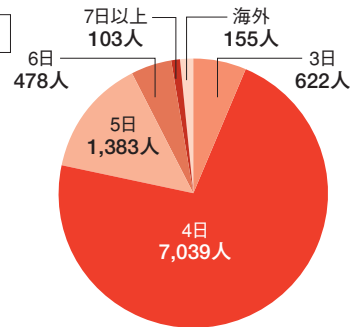
提供者の状況

9,780件

年齢・男女



入院日数



※海外の20歳未満のドナーが3人含まれています。

## 国際協力の現状

|              |   | 2008.7~9    |        |          | ~2008.9末 |       |     |
|--------------|---|-------------|--------|----------|----------|-------|-----|
| 海外ドナーから国内患者へ |   | 患者登録数       | 全抗原適合* | コーディネート数 | 移植数      | 累計移植数 |     |
| NMDP (米国)    | → | 日本          | 6      | 6        | 4        | 1     | 113 |
| BTCSCC (台湾)  |   |             | 6      | 6        | 1        | 0     | 29  |
| KMDP (韓国)    |   |             | 6      | 6        | 4        | 0     | 13  |
| CMDP (中国)    |   |             | 4      | 3        | 0        | 0     | 0   |
| 計            |   |             |        |          |          | 155   |     |
| 国内ドナーから海外患者へ |   | 患者登録数       | 全抗原適合* | コーディネート数 | 提供数      | 累計提供数 |     |
| 日本           | → | NMDP (米国)   | 18     | 10       | 23       | 0     | 13  |
|              |   | BTCSCC (台湾) | 0      | 0        | 0        | 0     | 0   |
|              |   | KMDP (韓国)   | 61     | 38       | 42       | 1     | 141 |
|              |   | CMDP (中国)   | 4      | 4        | 1        | 0     | 0   |
|              |   | その他の国**     | —      | —        | —        | 0     | 22  |
| 計            |   |             |        |          |          | 176   |     |

\* 1人でも適合したドナー候補者が見つかった患者の数

\*\*国別件数：香港7件、ドイツ3件、英国2件、オーストラリア2件、ブラジル2件、ベルギー2件、オランダ1件、カナダ1件、シンガポール1件、フランス1件

各種の統計については、ホームページで公開しています。

<http://www.jmdp.or.jp/data/>

## ! Events

## 「骨髄バンク推進全国大会」名古屋で開催

9月21日(日)、愛知県名古屋市の中電ホールで「骨髄バンク推進全国大会 1万人のありがとう～患者からドナーへドナーから患者へ～」が開催されました。名古屋では10年ぶりの全国大会開催で、全国から約350名の方が参加しました。

第1部の式典では来賓のご挨拶の後、企業・大学サークルなど、15団体に感謝状贈呈が行われました。第2部では、名古屋コミュニケーションアート専門学校生徒さんによるゴスペルアンサンブルに続いて、大谷貴子さんの司会でトークショーが行われ、元患者さんやドナーさん、ボランティア活動を行なっている学生さんなど、多くの方の体験談が披露されました。



トークショーでは、多くのドナーさんが登録のきっかけや提供時のエピソードを披露しました



ロビーでは後援団体のブースが展示され、地元の支援活動を紹介しました

## News

## 白血病を克服したシンガーソングライター:アンドリュー・マクマホン、来日公演決定

米国のシンガーソングライター、アンドリュー・マクマホン率いるジャックス・マネキン2ndアルバム「グラス・パッセージ」(ワーナー)が発売されました(10/13日付オリコン洋楽チャート10位)。アンドリューは2005年、急性リンパ性白血病と診断されましたが、姉妹からの骨髄移植を受けて病魔に打ち勝ちました。また、2006年7月

“Dear Jack Foundation”(Dear Jack基金)を設立、白血病・小児がんの研究を支援しています。また、来年1月11日からの来日公演が決定しています。お問い合わせはクリエイティブマン(<http://www.creativeman.co.jp/>)まで。



## 本田美奈子.さんメモリアルコンサート&amp;CDブック発売

2008 LIVE FOR LIFE『音楽彩』～本田美奈子.メモリアル～が、11月15日、ヤクルトホール(東京・新橋)で開催されました。また、病床の本田美奈子.さんが、作・訳詩家の岩谷時子さんとボイスレーサーで交わした対話を書籍化したCDブック「本田美奈子. 甦れアメイジング・グレイス—歌がつかない“いのち”の対話」(NHK出版刊)が発売されました。対話の一部が収録されたCDも付いています。

## 「本田美奈子. 甦れアメイジング・グレイス」

骨髄バンクのホームページに関するアンケートにご協力いただいた方の中から抽選で5名様にプレゼントします。詳細は下記URLをご覧ください。

<http://www.jmdp.or.jp/book/>(PCサイトのみ)



## 大谷貴子さん、梅田正造さん、骨髄移植推進活動で表彰

骨髄移植の推進に多大なる貢献をしたことにより、特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会の会長・大谷貴子さんが第60回「保健文化賞」(主催/第一生命保険相互会社、後援/厚生労働省、他)、千葉骨髄バンク推進連絡会の会長・梅田正造さんが千葉県功労者表彰(健康福祉功労)を受賞しました。

大谷さんは骨髄バンクの設立に奔走し、公的骨髄バンクができてからもドナー登録の普及啓発活動を精力的に行ったことが評価されました。

梅田さんは長年千葉県内で骨髄バンクの普及啓発活動やドナー登録会を積極的に推進したことが受賞につながりました。

## Support

## ゴルフ大会で骨髄バンク支援

12月に骨髄バンクを支援するためのチャリティーゴルフ大会が2つ開催されます。

12月3日(水)、「2008年中溝裕子 骨髄バンクチャリティーコンペ」がヌーヴェルゴルフ倶楽部で開催されます。当財団の評議員であり、骨髄移植経験者でもある中溝裕子プロの呼びかけにより、昨年に引き続き開催するもので、ゴルフコンペのほかチャリティー

オークションも行われます。

12月8日(月)、「ぐるなび・骨髄バンクチャリティーゴルフ大会」が戸塚カントリー倶楽部で開催されます。同ゴルフ大会は食関連情報サイトを運営するぐるなびの社会貢献活動の一環として開かれ、今年で4回目を向かえます。毎回、趣旨に賛同された女子プロゴルファーをはじめとして、多数の方々にご参加いただいています。



# 〈骨髄バンクを支える〉 コーディネーターの仕事

コーディネーターは、候補になられたドナーのサポートに努めながら、骨髄提供にむけての調整(コーディネート)を進めるのが仕事です。具体的にはドナーとそのご家族に対して骨髄提供に関する説明と意思確認、ドナーと医師、関係機関との連絡調整、骨髄提供後の健康面等のフォローアップなどを行っています。コーディネーターが、適切なコーディネートを進めることで、移植を待つ患者さんの迅速な救命が可能となります。現在、全国で約150名のコーディネーターが活躍しています。

今年4月から関東地区で新しく活躍している3人のコーディネーターにお話を伺いました。

## ムードメーカーとしての役割

「コーディネーターにとって大切なことは？」という質問に、3人共通して「話し易い雰囲気作り」という答えが返ってきました。「ご家族の反応も含めたご本人の本当のお気持ち、確認検査(注1)の段階からしっかりとつかうかがってコーディネートを進めるようにしていますが、何か不安を抱えられたままではそれが困難になります」(秋丸)「そのために、面談でも電話でも、どんな些細なことでも不安があれば私たちに相談してもらえよう雰囲気作りを大切にしています」(鶴園)「コーディネーターとして、ドナーさんに笑顔と安心感を提供できる存在でありたいです。ほとんどの方はコーディネートを受けるのは初めての経験。ドナーさんにこの経験がいいものだった、いい出会いだったと思っていただきたいです」(鈴木)

## ドナーさんは同志

「コーディネーターの仕事は時間が決められているわけではないので、自分の中でケジメをつけるようにしています。ドナーさんも病院の先生もお忙しくてなかなか連絡が取れないことが多く、検査や面談のスケジュール調整には苦勞します。金曜日の夜など電話が繋がらないことがほとんどなので、その時間帯は連絡をしない、と自分でルールを作って、効率よく仕事を進めるようにしています」(秋丸)

始めて8カ月、コーディネーターとしての経験の積み重ねに伴って、ドナーさんの印象的なエピソードもたくさん蓄積されているようです。

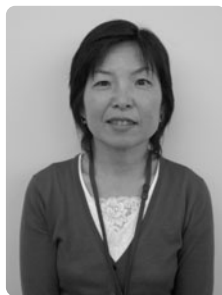
「術前健診(注2)結果で、肝機能の値がわずかに基準値外だったドナーさんがいらっしやったのですが、3度目の検査でやっとクリ

## コーディネーターにとって最も大切なことは何だと思いますか？



秋丸晴子さん

日々前進……  
(ノッ ノッ モ 成功に)



鶴園かの子さん

「一期一会」の心かほ?!  
心かけてます。



鈴木真保さん

笑顔と安心感

アした瞬間、パアツと表情が明るくなって本当にうれしそう顔をされました。聞けば、シジミ汁を飲んで体調を整えていたそうです」(鈴木)

「ドナーさんが患者さんを思う気持ちを知った時、よし！明日も頑張ろう！と元氣付けられます」(鶴園)「ドナーさんも私たちも、思いは二つだと実感しています。コーディネーターの仕

## 現在コーディネーター養成研修会受講者を募集しています。 詳しくは12ページの募集要項をご覧ください。

骨髄バンクのコーディネーターは、ドナーの方の善意を患者さんへお届けするための橋渡しをする大切な役割を担っています。コミュニケーション能力や医学的知識だけでなく、温かい人間性や責任感など求められるものは少なくありません。

それでも、ドナーの方に「あなたが担当でよかった」と言っていただけときの満足感を糧にコーディネーターは今日も全国で活動しています。  
(ドナーコーディネート部より)

注1 確認検査:HLA適合通知を受け取ったドナーが、コーディネーターと医師から骨髄移植に関する詳しい説明と問診を受けた後に行われる血液検査。健康確認とHLA型の再確認の後、最終同意へと進む。

注2 術前健診:最終同意を終え、骨髄提供を決めたドナーが、採取の前に受ける健康診断。

## コーディネーター養成研修会受講者募集のお知らせ

骨髄移植推進財団では、コーディネーター養成研修会受講者を募集します。

コーディネーター養成研修会を受講後、コーディネーターとしての認定を受けて、当財団からの委嘱に基づき活動していただくことになります。

詳細はホームページ (<http://www.jmdp.or.jp/>) をご覧ください。

### ●募集地域および人数（下記の地域で活動可能な方）

- 関東地区 東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県 10数名
- 東北地区 秋田県 若干名  
福島県いわき市 若干名
- 北海道地区 札幌市 若干名

### ●応募資格

- ・原則25歳以上の健康な方
- ・骨髄バンク事業を理解し、熱意を持ってコーディネーター業務に時間と労力を割くことができる方
- ・ただし骨髄移植のため登録中の患者さんやその家族、特定の患者さんの支援活動をしている方は除く

### ●研修期間

2009年1月中旬～3月下旬  
\*1月10日(土)～1月11日(日)、東京で開講式・集合研修予定

### ●応募方法

履歴書(写真貼付)、職務経歴書、受講動機(400字原稿用紙1枚)を添えて下記までお申込みください。なお、応募書類は返却しません。(応募に関する個人情報、選考手続きおよび今後の研修のためにのみ使用し、その他の目的で使用することはありません)

### ●応募締め切り

2008年12月16日(火) 消印有効

### ●説明会(関東地区のみ)

2008年12月24日(水)  
\*書類選考のうえ、該当者に詳細について連絡予定

### ●応募先(問い合わせ先)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-19

廣瀬第2ビル7階

(財)骨髄移植推進財団「コーディネーター養成研修会」係

TEL 03-5280-2200

## 募金のお礼とお願い

骨髄バンクの運営は、国庫補助金などの公的資金のほか、患者さんの負担金と皆さまからの寄付によって支えられています。寄付金には、特定公益増進法人への寄付として税制上の優遇措置があります。

## 皆さまの善意をお寄せください

### 1. 郵便振替

郵便振込用紙で、最寄りの郵便局からお振込みをお願いします。手数料は当財団負担となります。

### 2. 銀行振込

① ☎0120-377-465までお電話ください。  
みずほ銀行本支店間での手数料が無料になる専用振込用紙をお送りします。

#### ②イーバンク銀行

[http://www.jmdp.or.jp/help\\_us/howto/bank.html](http://www.jmdp.or.jp/help_us/howto/bank.html)

24時間入出金が可能なイーバンク銀行をご利用いただけます(手数料無料)。なお、事前に口座の開設が必要です。

### 3. クレジットカード募金

①お電話でご使用になるカードをお手元にご用意のうえ、☎0120-377-465までお名前・ご住所・電話番号・カード番号・カードの有効期限・ご寄付の金額をお知らせください。

#### ②インターネットから

詳細は骨髄バンクのホームページをご覧ください。

[http://www.jmdp.or.jp/help\\_us/howto/credit.html](http://www.jmdp.or.jp/help_us/howto/credit.html)

預金口座振替依頼書による自動払込利用が可能になりました。☎0120-377-465までお電話ください。資料をお送りします。

## 骨髄バンク提携クレジットカードのご案内

クレジットカードによるお支払額の一部が骨髄バンクに寄付される骨髄バンクサポーターカード。寄付金なしの一般会員と、毎年3,000円を寄付するサポーター会員、毎年1万円寄付する特別会員があります。骨髄バンクカードには、この3種類のNICOSカードのほか、各VISA付きカードがあります。

入会申込書を☎0120-377-465までご請求ください。

お問い合わせ・資料請求は

日本骨髄バンク

☎0120-445-445

<http://www.jmdp.or.jp/>

## なんでも探検隊・マラソン部設立!

なんでも探検隊長のアヤトです! 骨髄バンクのイベント開催時には、たくさんの方々にご協力いただき、ありがとうございます。なんでも探検隊では新たな活動として、マラソン大会などで一緒に活動していただける方を大募集します!



2008グリーンリボンランニングフェスティバルにて

### こんな活動をしていきます!!!

- 骨髄バンクのタスキをつけて、マラソン大会や駅伝に参加
- 大会の会場内でのチラシ配布 など

まずは、説明会にご参加ください。

(説明会は2009年1月～2月開催予定。会場は東京です)

### 応募方法 (いずれかの方法でお申し込みください)

パソコンから ▶ <http://www.donorsnet.jp/nandemo33/>

携帯電話から ▶ 住所、氏名、年齢、職業、連絡が取れる電話番号、メールアドレスをご記入の上、下記のメールアドレスまでお送りください。  
t33@donorsnet.jp

※お申し込みいただいた方には、説明会のお知らせをメールでお送りします。連絡はすべてメールで行うので、パソコンか携帯のメールアドレスをお持ちの方に限ります。※ご応募は東京、千葉、神奈川、埼玉、在住の方に限ります。

## 編集後記

今号の特集は、骨髄バンクに関わる方々にお話をうかがいました。インタビューのとき、12月に骨髄移植例数が1万例に到達することをお伝えすると、その数の多さにびっくりする方がたくさんいました。1万例を支えてくれた方すべてにお礼申し上げます。そしてこれからも「生きる喜び」を皆さまと一緒に築いていくために努力していきたいと思います。(Y.A)

バンクニュースに関するご意見・ご感想をお聞かせください。

>> <http://www.jmdp.or.jp/news33/>